科目名	教育相談	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	谷山 優子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他	<small>(分間スピーチ 学外フィールドワーク 出前授業 (ゲストティーチャー)の活用)</small>	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校における教育相談の意義と課題を理解している。 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎知識を含む)を理解している。 いじめ、不登校、虐待、非行、発達障害等、最近の教育課題への教育相談の進め方、組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。 全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」が身についている。 <p>[授業概要]</p> <p>この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題(教育相談等)への対応について、学校現場で実際によくある事例を交えて具体的に講義します。学校現場では、いじめ、不登校、非行、学級崩壊といった教育課題にどう対処するかが重要になっています。児童生徒一人ひとりの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格を成長させる力が教員には求められています。学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談の意義や基本的な技法、教育相談の進め方などをグループワークで学びを深めていくアクティブラーニングで行います。子供の理解や支援の方法を中心に、子供のもつ多様な背景を想像したり、保護者や関係機関との望ましい連携のあり方(相談にのる心構えやカウンセリングの基礎基本を含む)について理解し、実際に日常生活で学んだことを実践していくことをめざしていきます。</p> <p>テキストは、『生徒指導提要(平成22年3月版)第5章』(文部科学省HPよりダウンロード)を用います。適宜、生徒指導提要改訂版令和4年12月もダウンロード版を併用します。購入する必要はありません。</p> <p>ノートについては、手書きのノートのはかに、パソコンをノート代わりにしてもかまいません。授業の板書は写真撮影 OK です。ICTを活用して授業を受けてみると、その効果や課題が実感でき、今後の児童生徒への指導に役立つ視点が得られると考えるからです。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で出された宿題や探究課題について主体的に取り組む(復習と探究)。<2時間> 授業で予告された次回の内容について探究する(反転授業のための予習)。<2時間> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教育相談とは、意義と課題(カウンセリング技法:受容、共感の実践演習) 2.相談にのるための「悩みを聴く力」(セルフチェック、グループワーク) 3.予防的・開発的教育相談(リフレーミング1) 4.アセスメント・コーピング(リフレーミング2) 5.進路や生き方(グループエンカウンター1) 6.価値観の違いを認め合う(グループエンカウンター2) 7.相手の主訴を傾聴する(グループエンカウンター3) 8.愛着障害、保護者の障害受容の理解(いじめ、不登校、虐待、非行等)(ディスカッション) 9.好ましい人間関係、アサーショントレーニング(さわやかに断る寸劇) 10.多様な背景を持つ児童生徒の理解(学外フィールドワーク) 11.心身の健康について専門知識を持ち相談に生かす(ゲストティーチャーの活用) 12.ケース会議による関係機関・保護者の連携(ロールプレイ) 13.まとめ 			

科目名	教育相談	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	谷山 優子		
<p>[成績評価方法] まとめテスト(論述あり)(80%)、授業ごと的小テスト(記述式)(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業ごと的小テスト(記述式)に対して、提示した評価基準でフィードバックをおこないます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育1-1/教育学・保育学における基本的な知識・技能を修得している。 成績評価方法:毎回の授業の「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育2-1/子どもの成長や発達を多角的・多面的な視点から捉えることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-2/社会や子どもが持つ多様な価値を尊重し、他者と協働して教育・保育を実践していくことができる。 成績評価方法:毎回の授業の「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>学科DP番号/DP内容:教育3-3/教員・保育者として、使命感や責任感をもって、教育・保育に関わることができる。 成績評価方法:毎回の授業の「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:毎回の授業の「まとめ」「小テスト」等への記述で評価していく。</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名:『生徒指導提要(平成22年3月版)第5章』(文部科学省HPよりダウンロード) 著者名:文部科学省 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			